

2023年9月24日（聖霊降臨後第17主日、特定20、A年）

牧師メッセージ

「気前のよい神」

（マタイによる福音書20:1-16）

司祭ヨセフ太田信三

今日の福音書に登場する農園の主人は、何度もでかけて行き、労働者を確保しました。なぜなら、ぶどうの収穫は霜が降りる前に終わらせなければならないので、収穫の追い込みの時期には一人でも多くの労働者が必要だからです。

夜明け、朝の九時、十二時、三時、五時とそれぞれの時間で労働者が雇われ、ぶどう園に送られます。主人は「夜明け組」には一デナリオン、「九時組」にはふさわしい賃金を約束しました。ここで、「ふさわしい賃金」と訳された言葉は、「何であれ、正義であるもの」と直訳できます。この世的な価値基準、「正義」で言えば、その後暑い中を一日労働することになる「夜明け組」が最高額の賃金をもらい、それから時間に応じて賃金が減っていく、というように考えます。しかし結果はそうではありませんでした。なんと、最後の一時間しか働いていない「五時組」と「夜明け組」が同額だったのです。夜明け組が不平を言うのは当然です。しかし、主人はその一人を呼び、「友よ」と呼びかけつつ、「あなたに不正なことはしていない。」と言います。主人にとっての「正義」とは、労働量に応じた賃金ではなかったのです。「わたしはこの最後の者にも、あなたと同じようにしてやりたいのだ。」と主人が言うように、主人にとっての正義は、「最後の者」をも同じように扱うことにあったのです。

もちろん、この「正義」を人間社会にそのまま当てはめることはできないでしょう。しかしこのたとえは、神がどのような方であるかをわたしたちに教えています。「わたしの気前のよさをねたむのか」と主人が言う通り、神は気前がよいのです。気前のよい神は、ご自分のものから惜しげもなくわたしたちに与えてくださいます。そして神は、「報酬」として救いを与える方ではない、ということです。神からの救いも、愛も、すべて気前のよい神から「恵み」として与えられるものです。「最後の者」であっても、です。

今週の福音は「後にいる者が先になり、先にいる者が後になる」と結ばれます。主イエスは別の箇所でも、誰が一番偉いかと言い合う弟子たちを戒めて、「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい」（マルコ9:35等）と言われます。この世的な基準で、「先になりたい」と「偉さ」を望むものは、後になってしまうのです。この世的な価値基準に捕われていては、本当に大切な神の思いが見えなくなってしまうからです。そうなってしまった人間は、「正しく」与えられている賃金にはもはや目が行かず、残るのは不平不満だけです。それでは、労働の喜びも、与えられている恵みへの嬉しさも失われてしまいます。しかし、もしも主人の思い、主人の「正義」に目が開かれるなら、その恵みを喜びと共に受け取ることができます。そればかりか、同じ恵みをいただいた者たちが喜び合える世界がそこに開かれます。

働くことの喜びを忘れ、いっそう多くの賃金にばかり目が囚われてしまった「夜明け組」のように、最後の者にも思いを注ぐ主人の「善さ」が見えなくなっていないでしょうか。立ち止まり、あらためて神の正義をこそ、求めたいと願います。